

埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース



No. 18

2023.9.1

ごあいさつ

院長補佐 廣岡 伸隆

9月に入りましてもお厳しい残暑が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。いまだ医療の現場では新型コロナウイルス感染を含む発熱患者さんの対応も途切れることなく、夏のお疲れは出ていらっしゃいませんか？

昨今、医療分野においても Digital Transformation（医療 DX）が叫ばれております。医療 DX を、厚生労働省「医療 DX 令和ビジョン 2030」では、“保健・医療・介護の各段階において発生する情報やデータを、全体に最適された基盤を通して、保健・医療や介護関係者の業務やシステム、データ保存の外部位・共通化・標準化を図り、国民自身の予防を促進し、より良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えること”と定義しています。

日常診療、診療報酬の請求、医療介護の連携、地域医療連携、研究開発など様々な場面で DX を考えることができます。大学病院においても、現在進行形の働き方改革の中で業務やシステムをいかに効率的に活用しながら、負担を減らし、かつ医療の質は維持・向上できる道を模索しています。地域と一体化して、これが進むと非常に良いと思うのですが、課題もあります。医療 DX により大学病院がさらに地域に貢献できるよう努めて参りたいと思います。引き続きご指導をお願い申し上げます。

※廣岡院長補佐（写真中央）と外来スタッフ

Contents

ご紹介	2
先進医療「治療抵抗性うつ病への rTMSによる維持療法」のご紹介	
診療科のご紹介	3
リウマチ膠原病科	
消化管内科	
外来で活躍中の医師のご紹介	4
脳神経内科・脳卒中内科	
リハビリテーション科	
医師のご紹介	5
消化器・一般外科	
呼吸器内科	
病院長からのメッセージ	
看護部から	6
感染対策室の紹介	
中央放射線部から	6
中央放射線部の紹介	
提携医療機関から	
はらこどもクリニック	7
鶴ヶ島池ノ台病院	7

先進医療「治療抵抗性うつ病への 反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS)による維持療法」の紹介

今回は当院神経精神科・心療内科で実施しております、先進医療「治療抵抗性うつ病への反復経頭蓋磁気刺激療法 (repetitive Transcranial Magnetic Stimulation : rTMS) による維持療法」について紹介させていただきます。

わが国のうつ病患者数はおよそ120万人、うつ病の有病率は約7%といわれています。うつ病患者さんのうち、約30%の患者さんは抗うつ薬等で改善しない治療抵抗性うつ病であることが知られています。このような治療抵抗性うつ病の患者さんに対して、rTMSが適応されます。rTMSは、パルス磁場による誘導電流（渦電流）で左前頭部の神経細胞を刺激して、うつ症状を改善させる治療法です。保険診療で行えるrTMSの対象は、18歳以上かつうつ病の診断を受けており中等症以上の抑うつ症状を示す患者さんです。現在当科では入院加療にてこの急性期のうつ症状改善のためのrTMSを積極的に行っており、良好な結果を得ております。

しかしながら、治療抵抗性うつ病は再発しやすいといわれているにもかかわらず、再発予防のためのrTMSの維持療法については、現在保険診療で認められておりません。そこで今回、当科はこの維持療法をするための先進医療を実施することに致しました。急性期に施行し

たrTMSに効果を示したあるいは十分改善したうつ病患者さんを対象とします。外来にて前半6か月間は週1回、後半6か月間は隔週1回のrTMSを行ないます。これにより、rTMSにより改善したうつ病の再発を予防することができることが期待されます。

当科では、うつ病・双極性障害といった気分障害の臨床および研究を重要な柱と位置づけており、この先進医療という大きな治療選択肢をうつ病患者さんに提供できるものと思っております。

開業の先生方へ医療連携のメッセージ

COVID-19により社会環境に大きな変化をもたらし、心理的ストレスも受けやすい状況が続いています。うつ病や神経症圏の患者さんなど、お気軽に下記までご紹介いただけましたらと存じます。そのほか、当科では家族性アルツハイマー病の遺伝子診断の先進医療も行っており、より良い医療の提供および医療連携もさらに深めていきたいと思っております。

神経精神科・心療内科 教授 松尾幸治
准教授 新井久稔

外来☎：049-276-1410

（精神医療福祉相談室）



反復経頭蓋磁気刺激療法の風景

● **リウマチ膠原病科 教授 三村 俊英 (ミムラ トシヒデ)**

私たちリウマチ膠原病科は、あらゆるリウマチ性疾患に対応し、最適な診療を行なうとともに若手医師の教育も進めています。外来では、紹介状持参の初診患者及び当科かかりつけ患者を中心に毎日朝から夕方まで数多くの患者診療を行なっています。病棟では、超急性期の重症病態から慢性疾患の難治性病態など多くの患者を診療しています。当科では断らない医療を実践し、重症病態の患者は埼玉県西部・北部のみならず、東部や県外からも依頼が来ています。文字通り、リウマチ性疾患診療の最後の砦として機能しています。最近の新たな取り組みとして以下の2つをご紹介します。

1) 脊椎関節炎チーム(当科担当: 和田 琢)を整

形外科及び皮膚科とともに結成し、1名の患者をこれら3科の専門医が同時に診療して診断や治療方針を決定する、患者中心の医療を行なっています。

2) 若い女性患者が多い当科の特徴から、妊娠を希望される患者の妊娠前の準備、妊娠中、出産後、育児中における診療を専門的な立場からアドバイスする母性内科診療部(当科担当: 舟久保ゆう)を立ち上げました。どちらも難病センター内に開設しています。今後も、相互の診療連携をよりよくお願い致します。



リウマチ膠原病科スタッフ一同



診療部長からのメッセージ

私が埼玉医科大学リウマチ膠原病科に赴任して22年目となりました。その間、先生方には診療連携で大変お世話になっております。お陰様で、当科は優秀な若手医師を輩出し、断らない医療を継続し、地域の医療に貢献してきたと考えています。これからも、時代に即した新しい医療を実践し、患者満足度の高い医療を進めて参ります。今後ともよろしくお願い致します。

リウマチ膠原病科 診療部長 三村 俊英

外来☎: 049-276-2034

診療科のご紹介

● **消化管内科 教授 今枝 博之 (イマエダ ヒロユキ)**

消化管内科は食道、胃、小腸、大腸といった消化管疾患に対応する診療科です。食道癌、胃癌、大腸ポリープ、大腸癌、粘膜下腫瘍から胃食道逆流症、好酸球性消化管障害、胃十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎やクローン病の炎症性腸疾患(IBC)、感染性腸炎、虚血性大腸炎、大腸憩室症、過敏性腸症候群、さらには小腸出血、小腸腫瘍などがあげられます。外来では胸やけ、下痢、便秘、下血、血便、嘔吐、腹痛などの症状を認める患者さんや検診で異常を指摘された患者さんを診療しております。内視鏡検査などすみやかに対応し、予約変更も電話で対応し、患者サービスに努めております。最新の内視鏡機器を導入して画像強調観察や超音波内視鏡(EUS)、人工

知能(AI)を用いて精密に診断しております。また、経鼻内視鏡や鎮静薬を用いて安楽な検査も施行し、大腸内視鏡の挿入困難例では細径スコープを用いたり、CT colonography、大腸カプセル内視鏡を行っております。小腸疾患にはカプセル内視鏡やダブルバルーン内視鏡を用いてアプローチしています。治療としてcold polypectomyも積極的に施行し、粘膜切除術(EMR)や内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)も安全に行っております。内視鏡的止血術も工夫し、経皮内視鏡的胃瘻造設術(PEG)、消化管狭窄に対するバルーン拡張術やステント留置術なども行っております。都築医師は厚労科研IBD班の班員として臨床研究や治験にも参加しております。



今枝 博之先生(写真:右)

診療部長からのメッセージ

消化管内科は内視鏡診断・治療を中心として消化管疾患に対応する診療科として2016年に立ち上がり、現在年間延べ約12,000名(新患約900名)の外来患診療と約3,400件の内視鏡診療に携わっております。最新で確実な診療を提供し、患者サービスに心がけ、医療連携を積極的に推進しておりますので、内視鏡検査治療のご依頼、診断・治療にお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、ご紹介をよろしくお願い申し上げます。

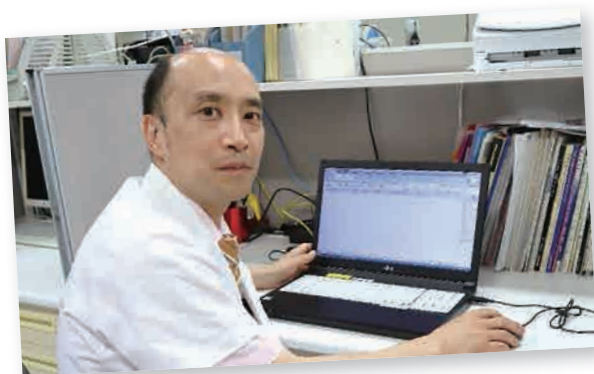
消化管内科 診療部長 今枝 博之

外来☎: 049-276-2034

● **脳神経内科・脳卒中内科** 助教 光藤 尚 (ミツフジ タカシ)

当科では長年に渡り頭痛外来を開設し、頭痛診療に取り組んで参りました。片頭痛をはじめとする頭痛診療はここ数年で飛躍的な進歩を遂げております。片頭痛の予防薬としてカルシトニン遺伝子関連ペプチド（CGRP）製剤や急性期治療薬としてジタン製剤が上市されました。当院はこれらの新規片頭痛治療薬を治験段階から数多く使用し、患者さんの頭痛の軽減に努めて参りました。これらの経験をも

とに新規片頭痛治療薬に漢方薬や鍼灸などを組み合わせるなど患者さんの病態にあわせた治療法を提案しております。また、当科の頭痛外来では脳脊髄液減少症や起立性調節障害による頭痛にも積極的に取り組んでおります。脳脊髄液減少症の診断は放射線科や核医学科と連携してMRIの新しい撮像法による診断や、日本に数台しかない半導体SPECT-CTを用いての脳槽シンチグラフィなど質の高い医療の提供に努めております。脳脊髄液減少症の治療は麻酔科と連携して行っております。複数の診療科がタイアップして行う頭痛診療は大学病院ならではのものですので、たかが頭痛と思わずお気軽にご紹介ください。



光藤 尚先生

脳神経内科・脳卒中内科 診療部長 山元 敏正
外来☎：049-276-2034

外来で活躍中の 医師のご紹介

● **リハビリテーション科** 助教 前田 恭子 (マエダ キョウコ)

近隣地域の医療機関の皆様、平素より大変お世話になっております。

リハビリテーション科では、脳卒中・整形外科疾患のリハビリ以外にも、各内科・外科疾患の患者さんに対して、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士と協力して日々リハビリを提供しております。

私は、ボツリヌス治療・装具診の外来を担当しております。ボツリヌス治療は、脳卒中後遺症である

上下肢の痙縮（異常な筋緊張）に対して、注射で行う治療で日帰りで行えます。内服薬と異なり、緊張が亢進している標的筋に限局的に薬剤を投与することができます。脳卒中後遺症で腕が屈曲し着替えがしにくい、手指の握りこぶし変形で爪を切ることができない、下肢の装具が合わない患者さんが適応となります。治療後、装具の再検討を行うこともできます。痙縮が強く、日常生活動作や歩行に影響がでている患者さんや、麻痺は軽度であるが、動きをもう少しスムーズにしたい希望のある患者さんがいましたら、是非ご紹介ください。適応の判断が難しい患者さんも外来で診察を行い、適応について検討いたしますのでご紹介ください。



前田 恭子先生

リハビリテーション科 診療部長 篠田 裕介
外来☎：049-276-1293

● **消化器・一般外科 教授 浅野 博 (アサノ ヒロシ)**

2023年5月1日付で埼玉医科大学消化器・一般外科教授を拝命いたしました。

私は1996年に埼玉医科大学を卒業後、当時の第一外科で2年間の初期研修を行い、大学院進学や海外留学を経て埼玉医科大学消化器・一般外科において診療に携わってまいりました。当科の診療分野は胃癌大腸癌などの悪性疾患や胆石症、ヘルニア、痔



核などの良性疾患だけでなく急性虫垂炎や胆嚢炎などの救急疾患など多岐に及びます。近年、手術対象患者の

高齢化が進んでいますが、高齢や基礎疾患を理由に手術を躊躇される方も少なくありません。ヘルニアや直腸脱など良性疾患は生命に危険が及ぶことは少ないものの所見によっては著しくQOLを低下させる要因となります。合併疾患があっても麻酔科や他科と連携し最善の治療法を検討してまいります。また手術方法についても腹腔鏡手術なども積極的に導入しています。病状によっては腹腔鏡が必ずしも低侵襲とはなりませんが、最善の治療を検討いたします。ご紹介いただく際には抗血栓薬をご処方されている場合はその中止の可否等についてもご教示いただけますと治療法の選択がスムーズにまいります。

今後ともどうぞご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

医師のご紹介

● **呼吸器内科 教授 中込 一之 (ナカゴメ カズユキ)**

近隣地域の医療機関の皆さま、平素より大変お世話になっております。私は2008年7月より埼玉医科大学呼吸器内科で仕事をさせていただき、2023年6月より教授を拝命しております。専門は、アレルギーや膠原病肺ですが、当院では2005年から日本の大学病院で初の「アレルギーセンター」が開設されており、主にアレルギー疾患の臨床、研究に従事しております。

アレルギー疾患は、重症例を含め増加しています。互いに合併しやすい特徴があり、治療を別々に行うのではなく、患者さんの立場にたった包括的な診療が求められています。埼玉医大病院アレルギーセンターでは、患者中心の診療、また地域の患者さんのニーズに応えるため、呼吸器内科と小児科を基盤に、皮膚科、耳鼻科、眼科と連携して、最新治療を

ふくむ専門的かつ包括的な診療を行っています。2018年には埼玉県唯一の「アレルギー疾患医療拠点病院」に指定されています。

アレルギー診療については、いままでの経験や蓄積を最大限活用するだけでなく、これからもさらに発展させる必要があります。大人の食物アレルギーも最近増えており、今後重要な社会問題となることが想定されます。アレルギー疾患の診断や管理など困っている症例がありましたら、是非紹介いただければと思います。



● **病院長からのメッセージ**

消化器・一般外科 浅野博先生

消化器・一般外科教授浅野先生は、私が病院長になった際に同科の診療部長となり、悪性及び良性疾患の外科治療や急性腹症など、様々な患者さんに対応してきました。近年、外科医不足が叫ばれて久しく当院も同様ですが、浅野先生は忙しい中で孤軍奮闘しこの地域の急性期外科医療や困難例を支えてきました。今後さらに地域医療機関とも連携を強化し診療を充実させるとともに、大学病院においても様々な方面で活躍が期待されます。

呼吸器内科 中込一之先生

呼吸器内科中込先生は本年6月に教授になられました。アレルギーや肺疾患全般の診療を中心に以前から活躍されています。当院のアレルギーセンターは、2018年に埼玉県唯一の「アレルギー疾患医療拠点病院」に指定され、複数の診療科が共同で連携し、包括的な診療を行っています。中込先生はまさにその中心的存在で、今後益々需要が増えるアレルギー診療においては欠かせない存在であります。このようなセンターでの包括的な診療は大学病院の特徴のひとつであり、対象となる患者さんを中込先生に是非ともご紹介頂ければ幸いです。

● 看護部から

感染対策室の紹介

埼玉医科大学病院は第一種感染症指定医療機関としての役割を担っており、その中で2003年に発足した感染対策室は、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務にて構成されています。患者さん、医療スタッフをはじめ、すべての方々を感染症から守



インфекション・コントロール
チーム 活動風景

るため、それぞれの職種が専門的な知識を用いて、問題となる感染・感染症の発生状況を把握し、根拠に基づいた感染防止対策の実践に取り組んでいます。

さまざまな活動に取り組むため、医師で構成される感染対策実務者、看護師で構成される感染制御リンクナース、多職種で構成される「インフェクション・コントロールチーム」と連携・協働して活動を行っています。さらに、現在問題となっている薬剤耐性菌の出現を防ぐため、2017年には抗菌薬の適正使用を推進する「抗菌薬適正使用推進チーム」が

発足し、診療をサポートすることで貢献しています。地域の医療施設とも連携し、院内だけではなく、地域全体の医療関連感染を可能な限り防ぎ、安全な医療を提供できるよう、全職種で感染対策に取り組む体制をとっております。

あわせて、当院は埼玉県より「埼玉県院内感染防止相談窓口」業務の委託を受け、県内の医療機関・社会福祉施設・診療所等からの感染対策に関する相談をお受けしています。感染対策についてお困りのことがございましたら、相談窓口（感染対策室：049-276-2150）までご相談下さい。

感染管理認定看護師 吉原みき子



感染対策室スタッフ一同

● 中央放射線部から

中央放射線部の紹介

中央放射線部は診療放射線技師53名体制で、一般撮影、透視検査、骨密度測定、CT、MRI、血管造影、核医学、放射線治療を主に担当しております。また予防医学センターにおいては人間ドックの業務も行っております。2020年に医療被ばく低減施設の認定を取得し、より少ない被ばく量での撮影を心掛けております。また、マンモグラフィ検診施設・画像認定をはじめ各種施設認定を取得、技師個人でも認定資格を取得するなど、日々知識と技術の研鑽に努め、安心して患者さんに検査や治療を受けて頂ける環境を整備しております。地域医療連携としては、主にカルナシステムを利用したCT、MRI、核医学の検査を行っております。

最近の話題として、核医学に最新鋭のリング型半導体SPECT/CT装置が導入されました。これまでも地域医療機関の先生方には脳血流シンチや骨シンチなどの患者さんをご紹介頂いておりますが、この装置は従来と検出器の形状が大きく異なり、短時間で高画質なSPECT画像が取得可能となります。こ

れによって、これまで検査が難しかった患者さんでも検査を受けて頂ける可能性があります。また、当院には国内で6台しか存在しない半導体SPECT/CT装置も以前より稼働しており、PET以外の殆ど全ての検査に対応しております。ご興味のある先生には直接ご案内致しますので、お気軽にご連絡ください。

中央放射線部主任 高橋将史



中央放射線部部长（核医学診療科教授）松成一朗先生と中央放射線部スタッフ一同

提携医療機関から

医療法人社団皆誠会 はらこどもクリニック(所沢市)

原朋邦院長は1973年発足の国立西埼玉中央病院の初代小児科医長として勤務をしていましたが、平成3年5月にはらこどもクリニックを立ち上げ、その後法人化しました。地域のプライマリケアを担う医療機関として、幅広く健康問題に応じ、よりケアが必要な場合には優れた施設・人に繋ぐ、繋いだ後も必要に応じてケアに参加することをポリシーとして仕事をしてきました。息子の原拓磨が副院長として加わり、アレルギー専門医としての診療活動にクリニックとしてのポリシーの実践を行っています。埼玉医科大学には診断やケア内容の改善の面で随分お世話になりました。当方がお願いするだけでなく、大学からも患者さんのケアに協力を求められる医療機関であり続けたいと思っています。



左：原朋邦院長、右：原拓磨副院長

院長：原 朋邦

医療機関情報

標榜診療科：小児科、アレルギー科、内科

特徴：一般外来、健康外来(健診、予防接種、隔離を必要とする患者の診療)、感染症の3つの診療の場に夫々別にアクセスルートを設けて患者さんが場の共有をしないようにしています。予約制をとり、常に2～3人の医師で対応しています

診療時間：午前 9:00～12:30

午後 15:00～18:30

休診日は土曜日午後、日曜祭日。

詳細や臨時の対応はホームページを参照ください。

ホームページ：<https://hara-kodomo.com>



鶴ヶ島池ノ台病院(鶴ヶ島市)

当院は1988年4月、地域密着型の外科・内科系病院として開設しました。以来、職員一同、迅速かつ正確な病気診断と真心ある誠実な医療の実践をモットーに努力を致しています。最近、当院のホームページをリニューアルしましたのでご参照して頂ければ幸いです。現在、病棟診療は長期療養病床を主体とし、貴院から沢山の転院相談を頂いています。外来診療に関しても、長らく貴院から多くの先生方を派遣して頂き、また速やかに紹介を要する患者様の受け入れて頂き、非常に感謝しております。おかげさまで、日頃から病診連携が取れていると強く実感でき、今後も強固な協力関係が築けていけると確信しております。今後とも何卒よろしくお願いいたします。



院長：石井 俊昭

医療機関情報

診療科目：外科、内科、循環器科、呼吸器科、泌尿器科、神経内科、消化器科、胃腸科、肛門科

外来診療時間：午前 8:30～12:00

午後 15:00～18:00

(土曜は17:00まで)

休診日：日曜、祝日

ホームページ：<https://www.ikenodai.com/>



埼玉医科大学 建学の理念

- 第1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長
を主体的に開展し得る人間の育成
- 第3. 師弟同行の学風の育成

埼玉医科大学の期待する医療人像

- 高い倫理観と人間性の涵養
- 国際水準の医学・医療の実践
- 社会的視点に立った調和と協力

埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心して質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心して質の高い医療を受ける権利
3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利

当院は、すべての小児の患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

連携医療機関からの各種問い合わせ

救急センター : 049-276-1199
地域医療連携室 : 049-276-1876
予約センター(外来初診予約) : 049-276-1179

医療福祉相談室(退院調整) : 049-276-2119
入退院・患者支援室 : 049-276-1484
セカンドオピニオン受付 : 049-276-1121



埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース(18号)

発行 : 埼玉医科大学病院
発行責任者 : 篠塚 望
編集 : 埼玉医科大学病院広報戦略委員会・地域医療連携室
編集責任者 : 池園 哲郎・中里 良彦
電話 : 049-276-1876 地域医療連携室
住所 : 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38
発行日 : 2023年9月1日

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。